

隨筆

青年の大地

Youth: Revitalizing the Community

——^{ちから}地域ルネサンスの力——



池田大作

Daisaku Ikeda

鳳書院

随筆

青年の大地

Youth: Revitalizing the Community

— 地域ルネサンスの力 —

池田大作

池田大作 (いけだ・だいさく)

昭和3年(1928年)、東京生まれ。創価学会名誉会長。創価学会インタナショナル(SGI)会長。創価大学、アメリカ創価大学、創価学園、民主音楽協会、東京富士美術館、東洋哲学研究所、戸田記念国際平和研究所などを創立。世界各国の識者と対話を重ね、平和・文化・教育運動を推進。国連平和賞。モスクワ大学、グラスゴー大学、デンバー大学、北京大学、清華大学など、世界の大学・学術機関から名誉博士・名誉教授の称号。世界の各都市から名誉市民等の称号。さらに桂冠詩人・世界民衆詩人の称号、世界桂冠詩人賞など多数受賞。著書に『人間革命』(全12巻)、『新・人間革命』(現22巻)、『私の世界交友録』など。対談集に『二十一世紀への対話』(A・トインビー)、『人間革命と人間の条件』(A・マルロー)、『二十世紀の精神の教訓』(M・ゴルバチョフ)、『地球対談 輝く女性の世紀へ』(H・ヘンダーソン)など多数。

随筆 青年の大地 — 地域ルネサンスの力 — ちから

二〇一〇年八月二十四日 初版発行

二〇一〇年十二月十日 四刷発行

著者 池田大作

発行者 榎本尚紀

発行者 株式会社 鳳書院

〒二〇一〇〇六二 東京都千代田区三崎町二一八一二
電話 〇三二三二六四一三六八(代表)

印刷 明和印刷株式会社

製本 株式会社 星共社

*

落丁・乱丁本はお取り替えいたします

©Daisaku Ikeda 2010 Printed in Japan

定価はカバーに表示しております

ISBN978-4-87122-160-3

はじめに

1

第二章 愛する地域

時代を創る青年の心

15

「千葉の心」は菜の花の如く

24

「太陽の宝土」埼玉

35

「人材の先進県」福井の光

46

神戸から「生命の輝き」を

51

第二章 青年と教育

若き心に励^{はげ}ましの太陽を

59

一人の行動が世界を変える

66

「正義」と「勇氣」の一步を

84

「根」を育てる「桜守」^{さくらもり}

90

第三章 健康と文化

「世界の奈良」から文化の大光^{たいこう}を

97

心の輝きと長寿^{ちようじゆ}

108

第四章 平和と人権

「オーストリア大宮殿展」に寄せて…………… 116

「新聞の力」——郷土から世界へ…………… 122

広島で「核廃絶サミット」を…………… 133

「あきらめの壁」乗り越える勇気を…………… 141

北陸から「平和の春」を…………… 148

未来の世代へ伝えゆくこと…………… 155

環日本海の大交流へ…………… 160

山陰の心は 安心社会の太陽…………… 166

第五章 友誼と対話

絆 きずな を強め人が輝く郷土に	173
豊かな友好の大地 ゆた	179
深き信義 しんぎ の源流 げんりゅう	184
岐阜から「共生 きょうせい の世紀」を	189
「世界市民の港 みなと 」に友情の絵巻 えまき を	194
「対話の文明」	199

*本書の収録に際して一部、加筆・編集させていただいております。

はじめに

「若者^{わかもの}だけが 障害^{しょうがい}を乗り超^こえる術^{すべ}を知^しっている、

彼の希望^{きぼう}は果^はてしなく、彼の力^{ちから}は限^{かぎ}りない！」*

これは、私が若き日^{した}から親^{した}しんだインドの大詩人^{だいしじん}タゴールの叫^{さけ}びである。

青年^{せいねん}の力^{ちから}を、皆^{みな}で伸^のばしていけるか否^{いな}か——いずこの国^{くに}や地域^{ちいき}も、この一点^{いんてん}に未来^{みらい}を開^{ひら}く急所^{きゅうしょ}があるのではないだろうか。

タゴールは一九〇一年、都会^{けい}の喧噪^{けんそう}から離^{はな}れた、地方^{ちほう}の小さな町——シャ
ンティニケタン（平和郷^{へいわじょう}の意）に自^{みづか}らの学園^{がくえん}を開^{ひら}いた。

最初の学生^{せいせい}は、わずか五人。野^や外^{がい}の木の下^{きのした}で、授業^{じゅぎょう}は行^{おこな}われた。全人格^{ぜんじんかく}的^{てき}
な教育^{きょういく}は、民衆^{みんしゅう}の大地^{だいち}である地域社会^{ちいきうかい}との触^ふれ合^あいの中で実現^{じつげん}できるとの信^{しん}

念^{ねん}で、社会奉仕^{ほうし}の活動^{ちから}にも力^{ちから}を入れた。

学^{がく}園^{えん}は今^{いま}、国^{こく}立^{りつ}タ^タゴ^ゴル^ル国^{こく}際^{さい}大^{だい}学^{がく}へと発^{はつ}展^{てん}した。イン^{イン}デ^デイ^イラ^ラ・ガ^ガン^ンジ^ジー元^{もと}
首^{しゅ}相^{しやう}や、「人^{あん}間^{ぜん}の安^{あん}全^{ぜん}保^ほ障^{しょう}」を唱^{しやう}導^{どう}した世^せ界^{かい}的^{てき}な経^{けい}済^{ざい}学^{がく}者^{しや}のア^アマ^マル^ルテ^テイ^イア^ア・
セ^はン^は博^は士^せも、こ^ここ^こに学^{まな}んだ。

ア^アジ^ジア^アの誇^ほる、世^せ界^{かい}市^し民^{みん}が創^{つく}った学^{がく}園^{えん}は、地^ち域^{いき}社^{しゃ}会^{かい}と一^{いつ}体^{たい}となつて、そ
の恩^{おん}ある地^ち域^{いき}に、イン^{イン}ド^ドに、そ^そして世^せ界^{かい}に貢^{こう}献^{けん}する英^{えい}才^{さい}を育^{はぐ}む名^{めい}門^{もん}となつた。

タ^タゴ^ゴル^ルはイン^{イン}ド^ド東^{とう}部^ぶのベ^ベン^ンガ^ガル^ル地^ち方^{はう}に生^{なま}れ、ベ^ベン^ンガ^ガル^ル・ル^ルネ^ネサ^サン^ンス^スと
呼^よば^はれる社^{かい}会^{かい}改^{かい}革^{かく}運^{うん}動^{どう}を担^{にな}った一^{ひと}人^{ひとり}でもある。

元^{がん}来^{らい}「ル^るネ^ネサ^サン^ンス^ス」は「再^{さい}生^{せい}」を意^い味^みする。主^{しゅ}として、十^{じゅう}四^し世^{せい}紀^きのイ^いタ^タリ
ア^アを中^{ちゅう}心^{しん}に起^{おこ}った人^{にん}間^{かん}主^{しゅ}義^ぎの大^{だい}文^{ぶん}化^か運^{うん}動^{どう}を指^さしてき^きた。往^{おう}古^このギ^ギリ^リシ^シヤ^ヤや
ロ^ロー^ーマ^マの文^{ぶん}化^かに、人^{にん}間^{かん}ら^らし^しさ^さの源^{みなもと}を求^{もと}め、美^び術^{じゆつ}・文^{ぶん}芸^ぎな^などで新^{あら}たな扉^{とびら}を開^{ひら}

いた。

この「人間復興」の営みの中に、私たちが取り組む課題である「地域再生」へのヒントもあるのではないか。「人間」が輝いてこそ、「地域」もまた輝いていくからだ。

行き詰まったら、原点に返れ！——である。「人間」こそ原点だ。ゆえに「人間」に返ればよいのである。そして、その人間が生きる「地域」にこそ、現状を打開する知恵がある。

私は命のある限り、青年のために、青年とともに、青年の心で、人間を育む大地を耕し続けたい。この願いと決意を込め、本書の題名を定めた。各地に「地域ルネサンス」の胎動を感じつつ。

グローバル化（地球一体化）が進み、一人の声が国境をも越える時代とな

った。ぎよくせきこんこう 玉石混淆げんろんの言論の大潮流だいちようりゅうにあつて、最後さいごに残るのは、誠実せいじつにして真実しんじつの言葉ことばだけである。人間にんげんに想像そうぞうの翼つばさを与え、他者たしやを思う心の育成いくせいにも通ずるかつじ「活字文化」の重みおもを、私はあらためて強調きやうちやうしたい。

例えば、ヨーロッパにおけるさつ ヴルネサンスの三大発明はつめいの一つも、活版印かつばんいん刷さつの技術ぎじゆつであつた。

人間の英知えいちの結晶けつしようである文字は、時代こを超え、国境こつきやうを越えて伝えられ、人間の精神せいしんを啓発けいはつし、偉大いだいな文化を興隆こうりゆうさせてきた。

不屈ふくつの言論ごんろんの闘士とうしであり、壮大そうだいな文明間対話ぶんめいかんたいわを進めた、インドネシアのワヒド元大統領もとだいていとうりようは、遺言ゆいごんのごとく、私に語かたられた。

「私たちの文明が前進できるのは、活字文化を活用かつようしているからです。活字文化は、私たちの考えや気持ちを込こめることができればかりか、長い間にわたつてそれを保存ほぞんし、何度も読み返すことができるものです。つまり、永えい

継続的な性質ぞくてき せいしつを持っているのです」

良よき活字文化かつじを守り、育てていきたい。それが人間性を豊ゆたかにし、地域を活性化し、そして社会を再生さいせいしていく、ルネサンスの土壌どじょうになるからである。

私は、各地の新聞が、活字文化発展はつてんへの原動力げんどうりよくになることを深く確信かくしんする一人である。地域に根ねざした創意工夫そどういくふうの紙面しめんは、人々を結むすぶ、生き生きとしたコミュニケーションの舞台ぶたいでもある。かけがえのない「心の広場ひろば」といつてよい。

最後に、貴重な寄稿きこうの機会きかいを与あたえてくださった山口新聞社、宇部日報社、千葉日報社、埼玉新聞社、福井新聞社、神戸新聞社、四國新聞社、岐阜新聞社、奈良新聞社、奈良日日新聞社、日刊県民福井、山陽新聞社、北國新聞社、富山新聞社、中國新聞社、長崎新聞社、新日本海新聞社、山陰中央新報社、

下野新聞社、IPS通信社の関係者の皆様方に心より御礼申し上げたい。

尊き各紙が「青年の大地」を照らす希望の光源として、文化の言論城として、ますます発展されゆくことを深く祈念いたします。

二〇一〇年 初夏

池田大作

随筆
青年の大地

—— 地域ルネサンスの力 ——
ちから

第二章 愛する地域

時代を創る青年の心

15

「千葉の心」は菜の花の如く

24

「太陽の宝土」埼玉

35

「人材の先進県」福井の光

46

神戸から「生命の輝き」を

51

第二章 青年と教育

若き心に 励^{はげ}ましの太陽を…………… 59

一人の行動が 世界を変える…………… 66

「正義」と「勇気」の一步を…………… 84

「根」を育てる「桜守」^{さくらもり}…………… 90

第三章 健康と文化

「世界の奈良」から文化の大光^{たいこう}を…………… 97

心の輝きと長寿^{ちようじゆ}…………… 108

第四章 平和と人権

「オーストリア大宮殿展」に寄せて…………… 116

「新聞の力」—— 郷土から世界へ…………… 122

広島で「核廃絶サミット」を…………… 133

「あきらめの壁」乗り越える勇気を…………… 141

北陸から「平和の春」を…………… 148

未来の世代へ伝えゆくこと…………… 155

環日本海の大交流へ…………… 160

山陰の心は 安心社会の太陽…………… 166